



教育支援センターだより

Education Support Center Report

2018.4.17 文責 田中 径久



入門期セミナー2018

平成30年度の島根大学教育学部における学生生活がスタートしました。3月23日(金)に4回生が巣立っていき、少し寂しくなったキャンパスでしたが、4月2日(月)に137名の1回生が教育学部に入学し、大学も活気づいてきました。



新生活がスタートし、大学生活への期待と不安を抱えながら、約2週間で過ごした1回生たちは、4月14日(土)～15日(日)に行われた入門期セミナーへ参加しました。

この入門期セミナーには、2つのねらいがあります。1つは、島根大学教育学部の特徴である1000時間体験学修の全体像を把握し、大学生活4年間の教育体験活動に対する見通しを持つことです。もう一つは、これから学生生活を共にする同級生と交流を深め、円滑な人間関係を築ききっかけにすると共に島根大学教育学部生としての自覚を高めることです。

この入門期セミナーは、31名の学生スタッフが運営にあたりました。この学生スタッフは、昨年度の2月から企画会議を積み重ね、新入生のために5つの研修を企画しました。研修内容は、「基礎体験活動の進め方」「出会いの場の演出と仲間づくり」「大学生の一般常識とマナー」「大学生活について～先輩に学ぶ(班でのディスカッション)」「クラスごとに親睦を深めよう」でした。大学生らしくメリハリのある研修内容で、堅苦しい学びではなく、1回生が主体的に学べるような雰囲気のある場を創り出すことができました。1回生の振り返りを見ても、満足度の高い研修になったといえます。

この入門期セミナー2018は、学生スタッフのがんばりがあったからこそ、充実のセミナーになったと思います。総括・統括を中心としたすばらしいチームワークのもと、GLのみなさんのおかげです。学生スタッフのみなさん、ありがとうございました。

1回生の感想より…

☆今回の入門期セミナーに行くまでは、正直めんどくさいと思っていたけれど、実際いろいろな研修をするうちにとってもいい経験になったと思いました。班のメンバーは、これからの授業や研修が同じということもあると思うので、今回築けた人間関係を大切にしたいです。



☆研修のなかで一番印象に残っているのが研修2の劇の事です。おそらくみなさん、演劇部などに所属されていない人ばかりではなかっただろうに、堂々と演じられている姿は本当に素晴らしかったです。今の自分では度胸とか勇気が足りず、決してできないと思ったので、1年後、2年後にはできるようにこれからしっかりと基礎体験活動に取り組みたいと思います



☆研修2～6を通して、GLの先輩方が本当にかっこよかった。1年生をまとめて、おもしろく、わかりやすく、楽しく接して下さって、話し方もすごく上手で、1000時間体験をやっていけば、この先輩方のようになれるんだと思いました。何のために体験するのかを考えながら、4年間で有意義なものにしていきたいと思う。



☆今回の入門期セミナーで、自分が立てた「1000時間体験学修を理解し、具体的なイメージをもつ」という目標を達成できた。それと同時に、自分が今身に付けていない「教師になる時に必要な資質」は1000時間体験学修を通して、確実に身に付けていきたいです。



☆私は、研修が始まる前は色々な不安でいっぱいでしたが、たくさんの研修を通して、新たな仲間もでき、先輩方の経験談を聞いている中で希望が持てるようになりました。自分もこれから努力して先輩方のように生き生きとした大学生活を送っていききたいと思います。



☆このセミナーを通して学んだことや得たことは沢山あるけど、私が一番心に残っているのは、GLさんの姿です。メリハリのある行動や聞くのがとても楽しくなるような話や日本語の選び方や、この2日間だけでも、とってもかっこいい姿をたくさん見る事ができました。私もあんな風になりたいと強く思ったし、なれるように、これからの大学生活を過ごしていきたいなと思いました。不安もあるけれど頑張りたいです。



☆今回の入門期セミナーは私にとって有意義なものになりました。1000時間体験学修については、ぼんやりとしたイメージがあって、「やらないといけない」ことだと感じていたけれど、2回生・3回生のスピーチを聞くと、1000時間が何なのかよく分かったし、「やらないといけない」から「やりたい」という認識が変わりました。

☆全ての研修内容が有意義なものだったのですが、その中でも研修5のディスカッションの先輩の考えや価値観に感銘を受けました。代表の方のプレゼンで、一番心に残った言葉は「同じ研修であっても、目標を持つか持たないかで得るものが変わってくる。」ということです。何を目標に研修しているのか明確にしておけば、成長につながるのだと改めて認識しました。これからの4年間、受動的に活動するのではなく、自ら元気よく能動的に活動していきます。

